

前 奏 黙想	祈 禱
讃美歌 61 かがやくみとのよ	讃美歌 531 ころのおごとに
祈 禱	献 金
信仰告白 使徒信条 教団戦責告白	讃 詠 547 いまささぐるそなえものを
聖 書 エレミヤ書 12:12	黙 禱
ガラテヤの信徒への手紙 5:22~26	主の祈り 564
讃美歌 420 世界のおさなる	頌 栄 543 主イエスのめぐみよ
説 教 『愛、自由、平和』	祝 禱 後 奏

「霊の結ぶ実^ミは愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、節制(ガラテヤ5:22)」。日本の敗戦の日が間近に迫る今日、改めてキリスト者としての「戦争と平和」を思い巡らせよう。平和は、それ単体で実現するものではない。平和は寛容や誠実さを伴って、霊が結ぶ愛の中に実現する。その対極が肉の業で(5:19)、敵意や利己心などを含んでいる(5:20)。「肉」とは精神に対する肉体の事ではない。また世が、霊による「愛と平和」側と、肉による「敵意と利己心」側に分けられるわけでもない。

「あなたがたは、自由を得るために召し出された。ただこの自由を、肉に罪を犯させる機会とせず、愛によって互いに仕えなさい(5:13)」。

それでは、人間に備わった「肉」を選ぶ自由も、私たちにあるのだろうか。かつて私は御言葉の文脈から、肉や悪をも選ぶ自由がある、と読んでいた。分水嶺に立って、霊へ流れるか肉へ流れるかが問われ続けているキリスト者。私はそのようにイメージしていた。

肉の業である「そねみや怒り、不和や仲間争い(5:20)」は、「自由」に選ぶわけではない、と思う。自由ではなく、ズルズル自らの「肉」に引きずられている状態ではないのか。誰も「嫉もう、妬もう」としてネガティブ感情(5:20~21)に陥るわけではない。引きずられて肉の牢獄に閉じ込められる。戦争はただの権力・財産の奪い合いではない。根底には、自由を失い肉に引きずられる人間の暗闇がある。

「荒れ野の裸の山に略奪する者が来る。主の剣はむさぼる、地の果てから果てまで。すべて肉なる者に平和はない(エレミヤ12:12)」。

これらの預言は詩形式による一種の「嘆きの歌」。預言者か詩人によって歌われたであろう。嘆きの歌の背景には、BC602年のバビロンによる大規模なエルサレム略奪があるのか。荒れ野に響き渡る現代のアザーン(イスラームのクルアーン朗誦)のような、哀切の響きか。

「すべて肉なる者に平和はない」。バビロンのような圧倒的な強者にも自由はない。戦勝も戦敗も、肉に引きずられた結果なのだ。略奪する者もされる者も、苛烈な戦争の渦中では「自由」などと言ってられないのか。いや自由は、どんな境遇でも起こりうる。「わが名によって〔主は生きておられる〕と誓うことを確かに学ぶならば、彼らはわたしの民の間に建てられる(12:16)」。

自由とは、主の名によって誓うこと。主の名を唱え、誓うことで、誰もが、霊による自由という真の主体性を持ちうる。

イエスは「平和を実現する人々は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる(マタイ5:8)」と語り、こうも語る。「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思ってはならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ(10:34)」。

後者は家族制度という支配からの解放、と言えればそれなりの答えになる。それよりもイエスの言葉で、私たちが揺さぶられ、ひっくり返されることこそ創造的。キリスト者が思い描く平和の実現は、政治的・道義的・歴史的な判断とは違う。今起こっている現実とイエスの言葉の前に立ち、危機的に揺さぶられ、一人の私として答えて行くことが霊による自由。

霊の結ぶ愛(ガラテヤ5:22)が自由の根拠。「喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制(5:22~23)」。

これが自由によって答える道筋。ただ自由は、私たちの寛容さや善意で実現するわけではない。キリストが人間の「肉を欲望や情欲もろとも十字架につけてしまった(5:24)」がゆえに自由は現実となり、平和は喜びと共に実現する。愛に捉えられたキリスト者は自由に決断し、聖霊に導かれていく(5:25)。

愛 自由 平和 これらの言葉はもう随分使い古されてインフレ気味 鋭くもなく 斬新でもない 白米のようなものか 飽きずに食べ チャーハンにしたり 酒を醸したり そんな愛と自由と平和 毎年8/15の直前の主日に、八ヶ岳教会は自らの信仰告白として「(教団)戦責告白」を唱えています。今週の予定:8/14(水)12:00~2:00 エステル会(集会所)。8/17(土)1:30~3:30 メディカル・カフェ。

礼拝堂・集会所の住所: 408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ: 408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

eメールは komechan.olive@gmail.com HPは「日本基督教団八ヶ岳教会」で検索して下さい。